

## 第2回「原子力フォーラム茨城」報告

国会議員と地域代表者との意見交換会—原子力の再興を目指し、地球環境を守り、活力ある茨城の実現を一に掲げた第2回「原子力フォーラム茨城」は、「原子力発祥の地茨城からの提言」を宣言して閉幕しました。参加者は、地元選出の国会議員（4名）、地域を代表する首長・市町村議会議員（約40名）、中高校生（6名）・学校関係者（5名）、原子力関係者・地域住民の総数約240名でした。主催者・来賓の挨拶や「対話討論」の概要を報告いたします。

☆期日；2010年12月5日(土) 13:30～16:15

☆場所；大洗文化センター大ホール

☆総合司会；深谷恒美（茨城支部事務局長）

### 1)主催者挨拶；田山東湖(茨城支部代表)

我が国における原子力エネルギー政策は混迷を続けている。今回、茨城における原子力の現状と課題について、情報と意見の共有とその具現化を目指し、本フォーラムを開催する。

### 2)来賓紹介及び来賓挨拶

#### (1)國井豊大洗町長；

1953年原子力の平和利用が宣言され、日本でも原子力基本法、原研設立、等目覚ましいものがあった。戦後10年足らずでわが町でもJMTR、「常陽」の誘致、観光と両立して今日がある。福島第一原子力発電所（以下1Fという）の事故後、大洗研究所への影響(予算、人員減)は目に余るものがある。これからは緊張感の醸成、共存共栄、地域振興策が求められる。

#### (2)岸田一夫鉾田市長；

2050年カーボンニュートラル宣言は明るい見通しである。1Fの事故は不幸な出来事であり、国民の目は厳しいものがある。正しく理解し、正しく判断することが大事である。

#### (3)海野透県会議員・原子力政策研究会会長；

エネルギー政策を考えると共に県民に正しい情報を伝えていくことを目的に、原子力政策研究会が県会議員超党派の3会派50人以上で発足した。昭和31年以来順調に推移したが、1Fの事故後のあゆみがストップしている。国の中で原子力をしっかり位置づけて欲しい。



第2回「原子力フォーラム茨城」主催者挨拶の風景（大洗文化センター大ホール）

## <第1部 国会議員からの活動報告>

### 1)額賀福志郎衆議院議員；

立地地域振興法は、令和3年3月に期限となるが、政府から法案を提出して年度内に立法の予定なので安心してください。2050年の温室効果ガス排出ゼロ目標の号砲は高く評価したい。令和3年度内にエネルギー基本計画で具体化の考え方を纏める。

### 2)石川昭政衆議院議員；

原子力規制法は、議員立法にて成立し、原子力規制委員会は三条委員会となり、独立性が独善に繋がった。新規制基準は全知全能ではないので、国会に特別委員会を設立し監視している。原子力発電所は止めている間は劣化しないので40年間の寿命ではなく、人間の健康診断の実施タイミングと考える。

### 3)岡田広参議院議員；

食料自給率39%は、世界では77位で食料安全保障上問題だ。エネルギー自給率11%はOECD内で42番目。菅内閣のカーボンゼロ宣言は素晴らしい。今こそクリーントップランナーとしての活動が望まれる。1Fの事故後、化石燃料依存度(3.7兆円追加)が戻ってしまった。原子力の活用に理解が深まるように、国、地方公共団体、事業者及び国民が一体となって、今後のエネルギー問題に取り組んでいく必要がある。

### 4)上月良祐参議院議員；

原子力は、社会の根幹を支えており、さまざまな産業が繋がっている。わが国は島国で資源も少ないのでエネルギー問題は重要だ。気候危機に対しては、化石燃料を減らしていくしかない。カーボンゼロは難しい課題だ。再エネが30%を超えると電力供給は不安定になる。原子力発電を見直すチャンスであり、このままでは国内の原子力発電所は20年後全て無くなる。冷静な対応が重要であり、このフォーラムが議論のきっかけとなって欲しい。

<休憩> 15:00~15:05

## <第2部 地域からの提案と対話討論>

### 1)地域からの提案(配布要旨集参照)

#### (1)提案1；産官学連携による人材育成と地域振興、発表者；田山東湖茨城支部代表

県内の人材と施設財産を生かした「国際原子力大学校」と材料試験炉の後継炉を誘致したい。

#### (2)提案2；地域振興を目指した東海地区の将来構想、発表者；武部慎一東海村議会議員

科学的根拠に基づき、国民の信頼を回復するために、より一層、丁寧な説明が必要である。

#### (3)提案3；地域振興を目指した大洗地区の将来構想、発表者；飯田英樹大洗町議会議員

材料試験炉の後継炉として照射を主目的とした先進的多目的炉を大洗地区に設置したい。

### 2)討論対話 司会；田山東湖茨城支部代表

発言者；

#### (1) 額賀福志郎衆議院議員；

マスメディアの世論調査、1Fの影響、等を真摯に受け止め、専門家は事故を起こさないというべきだ。災害が起こっても想定外で無いこと。国民の理解を得て世界的に展開し、共同研究協力、安心感の醸成が必要だ。7月に六ヶ所村の燃料サイクル施設の審査に合格したがこれからも万全を期すべきだ。地道に誠意をもって進めて欲しい。



「対話討論」の発表者



額賀・石川／岡田・上月議員（左から）

(2)石川昭政衆議院議員；

人材育成は福井県も提案している。原子力への就職に親が反対し、原子力人材が細ってしまう。さらに福島県も人材育成を考えている。連携して進めていく必要がある。新型炉の開発には SMR などがある。

(3) 岡田広参議院議員；

国策として東海・大洗への原子力の誘致がなされた。CO2 ゼロに 2 兆円の基金を設けるが、どうやって進めるか。再エネだけでは達成できないこと、原子力の必要性を国内世論に訴えていくべきだ。

(4) 上月良祐参議院議員；

JMTR の閉炉は残念だ。後継施設は是非とも必要だ。「常陽」の審査通過と J-PARK 利用を契機に住民の理解を求める。このフォーラムが冷静な議論を広く行うための牽引力となればよい。

(5)下路健次郎県会議員・原子力政策研究会幹事長

同じ情報を共有することが大事。勉強会を作って議論し、県会議員の理解を高める必要がある。

3)会場からの意見

県民の一人として安心安全を願う。原子力施設は十分安全なのか。2050 年に CO2 ゼロは重要な目標である。東海第二の原子炉停止中の 9 年間は運転期間に含めるべきではない。これは政治判断で決めると言われている。

4)総括 田山東湖 茨城支部代表

原子力発祥の地茨城からの提言(別紙)；①原子力発祥の地に「国際原子力大学校」を創設する。

②国内外の要請に貢献してきた「材料試験炉」の後継炉を設置する。

5)閉会挨拶 飯島一敬（茨城支部副代表）

本日の提言は地域を活性化する活動のスタートである。

16 時 15 分閉会

<配布資料>

①第 2 回「原子力フォーラム茨城」要旨集

②第 2 回「原子力フォーラム茨城」対話討論の総括「原子力発祥の地茨城からの提言」

③市町村議会「議員ネットワーク」組織の設立趣意書

以上